

桜の下には  
死体が埋まっている



DOJIN  
R18  
成人向け  
18歳未満の  
購入・閲覧禁止

幻想影燈籠



赤い目

いつも知っている  
幼馴染の少女の瞳は  
鈍く赤く

川の深みのように  
底が見えない







なぜそんなに  
僕を惑わせる

困らせる

答えてくれ

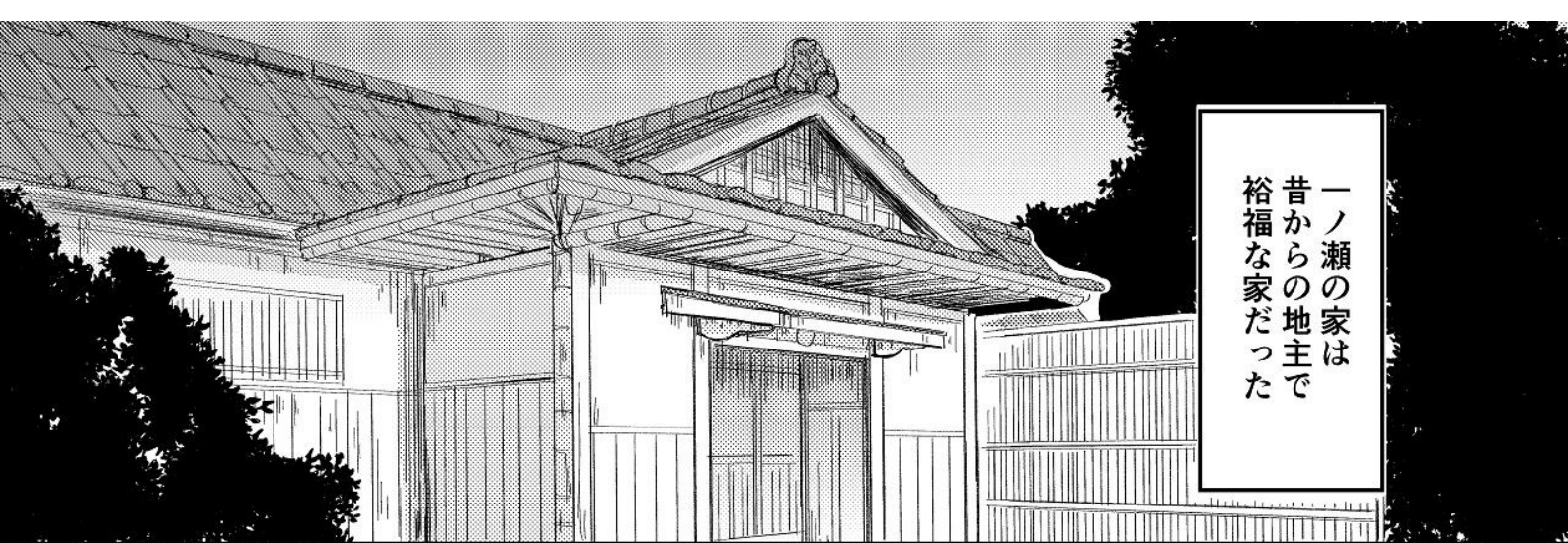
宗一

彼女、  
かのこに出会ったのは  
7年前の冬が近い  
晩秋の頃だった

爺ちゃん  
もうボケて  
変なことばかり言うんだ  
気にしないでくれ

彼は一ノ瀬与一  
僕の幼馴染で親友  
かのこの兄だ

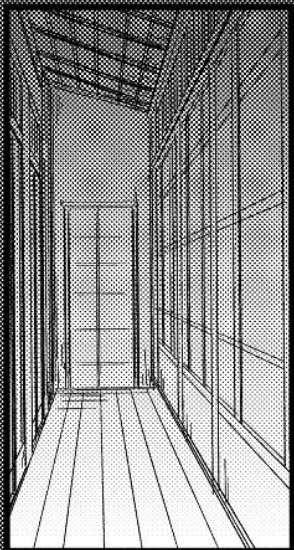
家の中で  
かくれんぼしよう



一ノ瀬の家は昔からの地主で裕福な家だった



もういいかい



昔からの大きな家だからか変な噂も多い家だった



あそここの部屋にとりあえず隠れよう

A..  
A..  
A..

まあだだよ



ガラッ

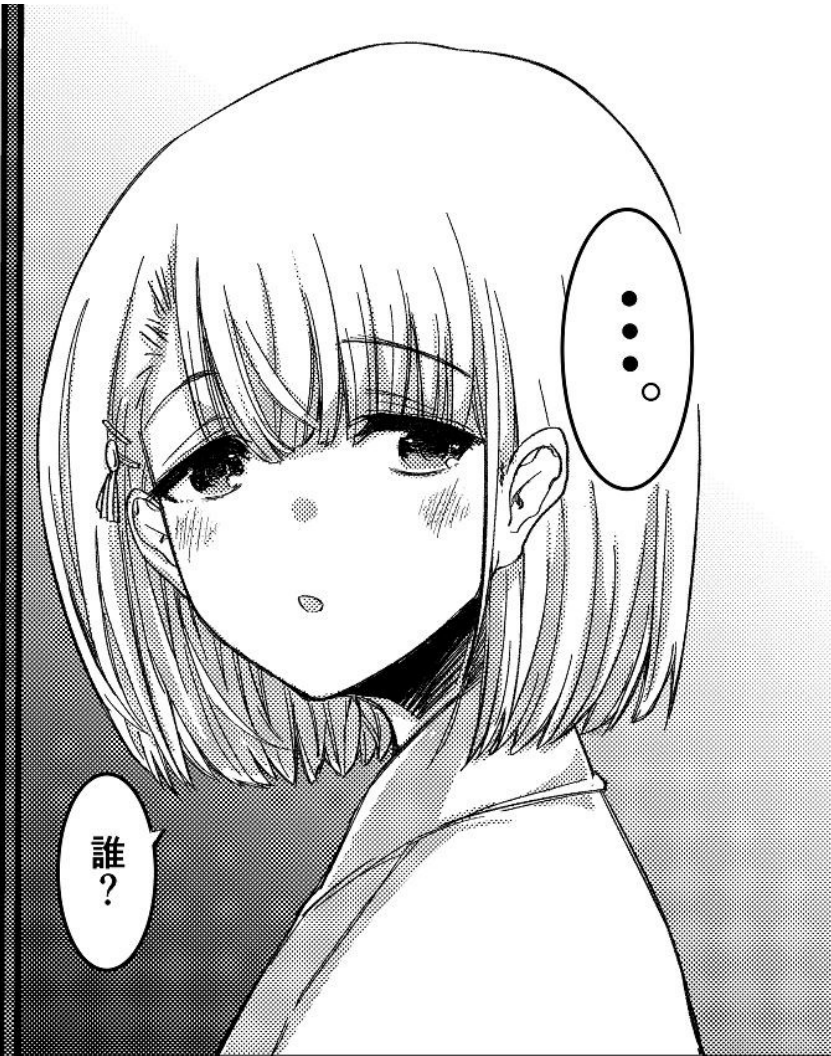


まあだだよ

もういいかい



白い肌



...

誰？



色素の薄い  
かのこを始めて見た時  
思ったことは

異様な美しさから来る  
怖さだった。



赤い目





ばか、  
親が決めた相手以外と  
結婚できると  
思っているのか？

よっちゃん嫌い



そうにいはい  
かのこの  
お婿さんだもの

ふん



宗一は優しいな  
俺のお婿さんに  
してやるぞ

駄目！  
かのこの  
そうにいなの

お  
よしよし。

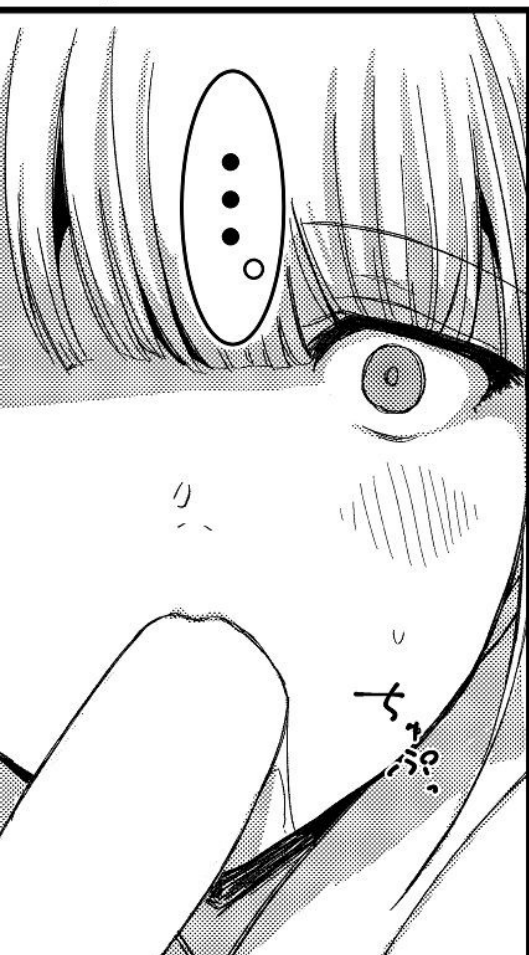
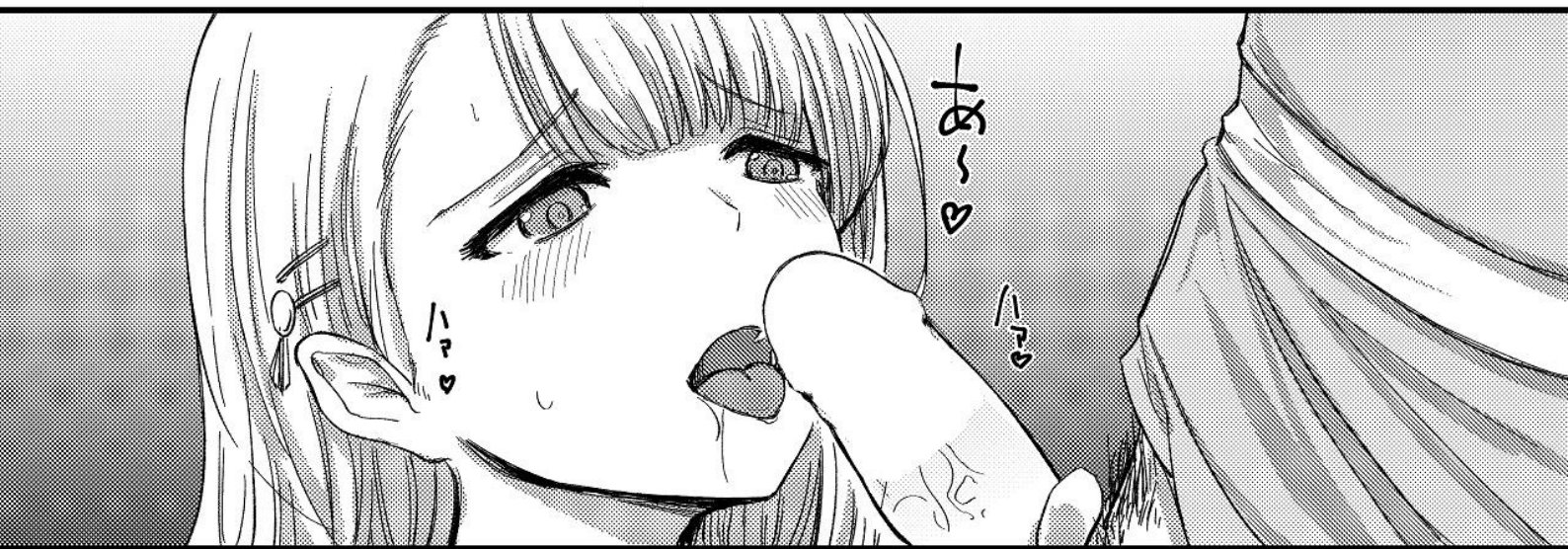
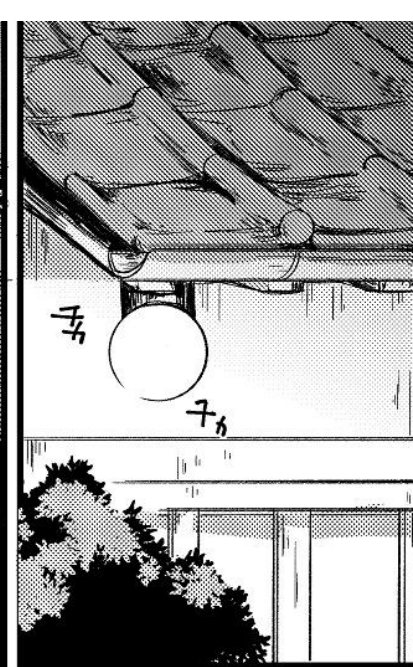
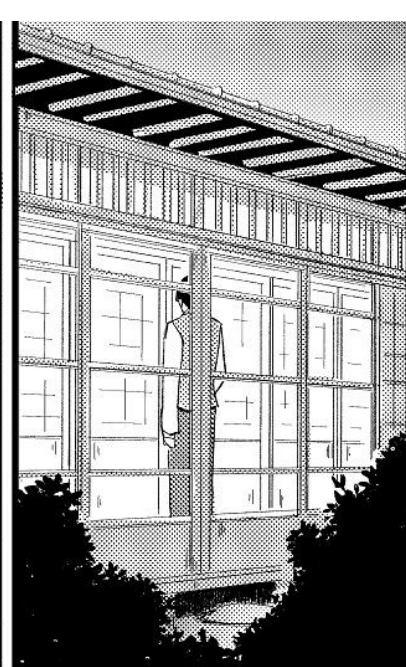


宗一  
かのこに嫌われた

お  
よしよし

ぐす



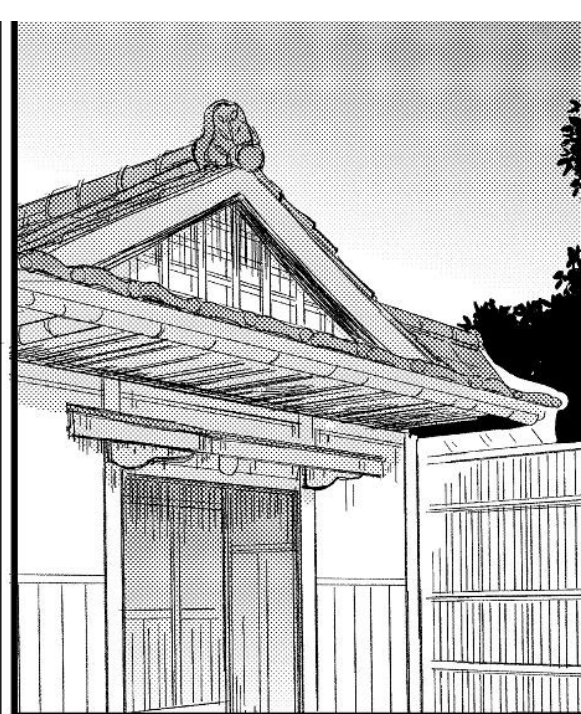






顔出しづらいな...

けど、あの二人は兄弟だし何かの見間違いだったのかも



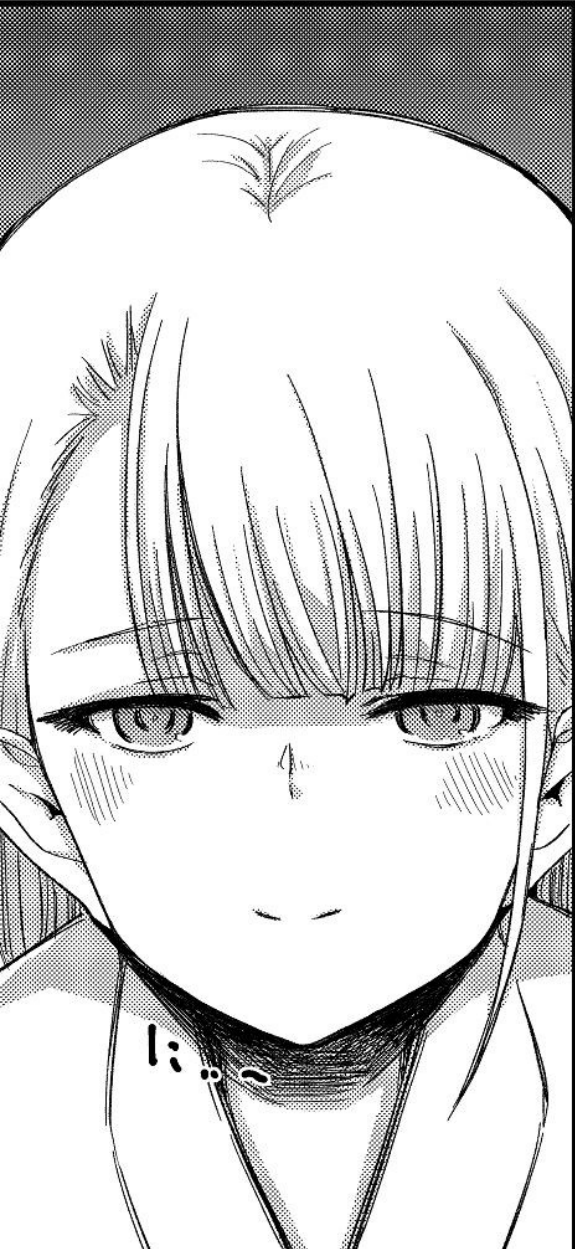
そうにい来てたんだ

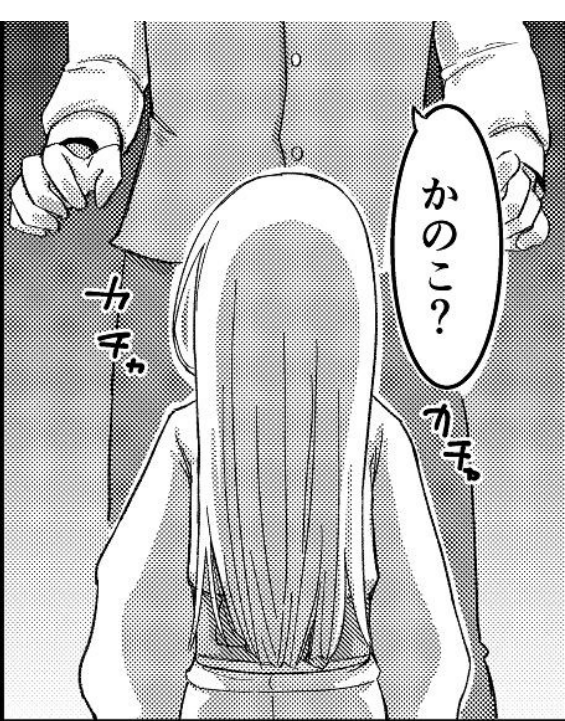


前、手紙忘れていったでしょさあ、入って入って

よっちゃんは今いないよ







かのこ?



なにをして...

しゅわんしゅわん



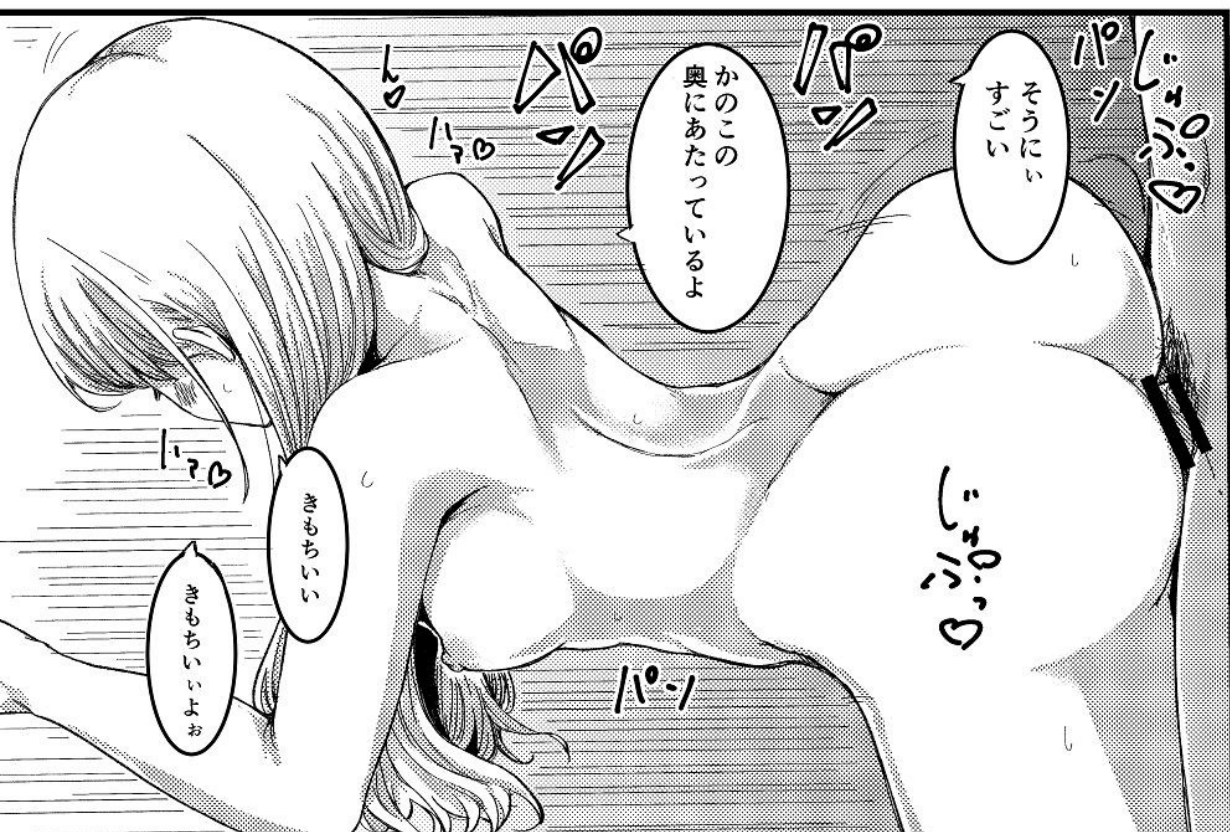
駄目だ  
かのこ!

しゅわん



♡

しゅわん♡







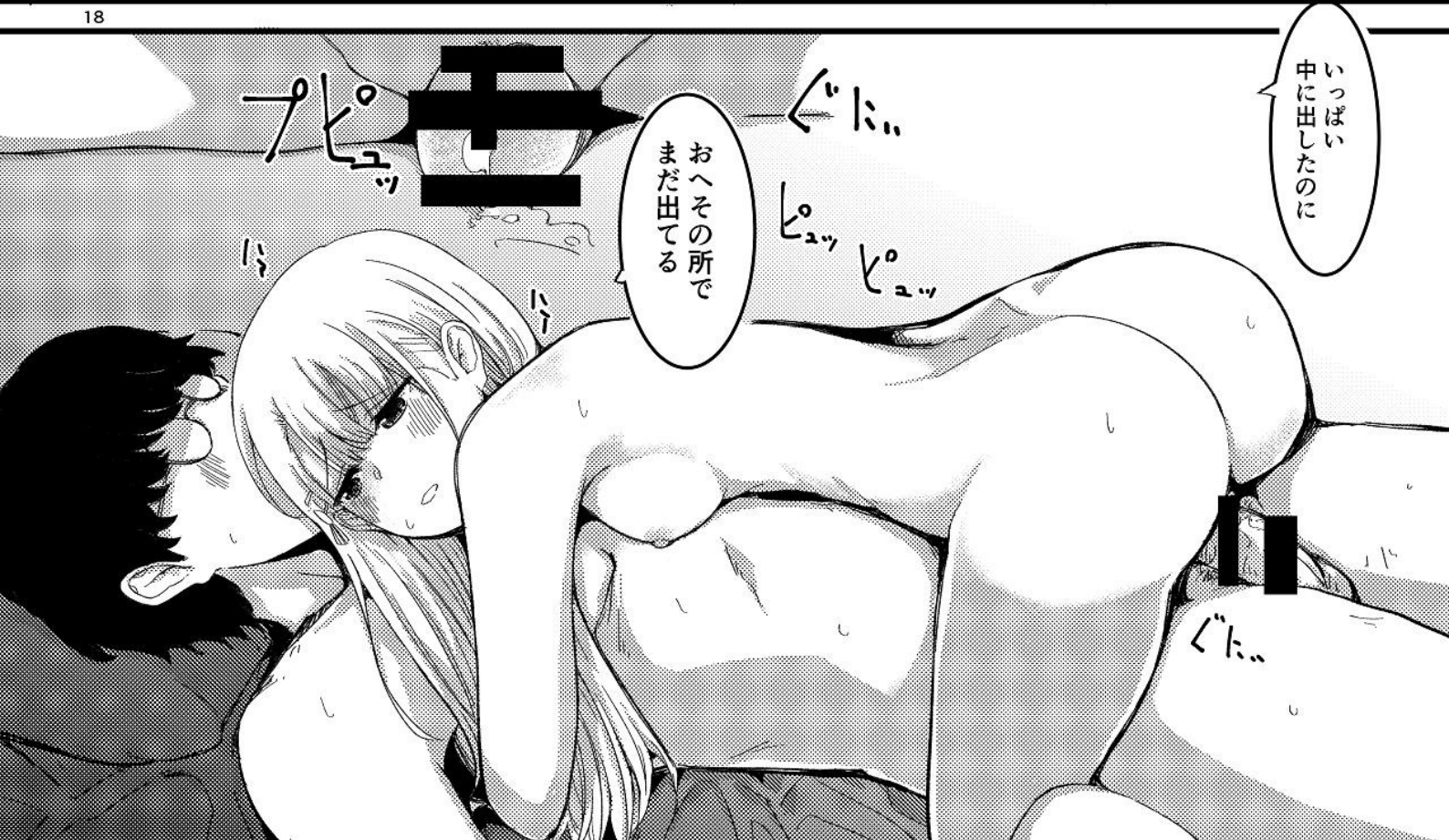
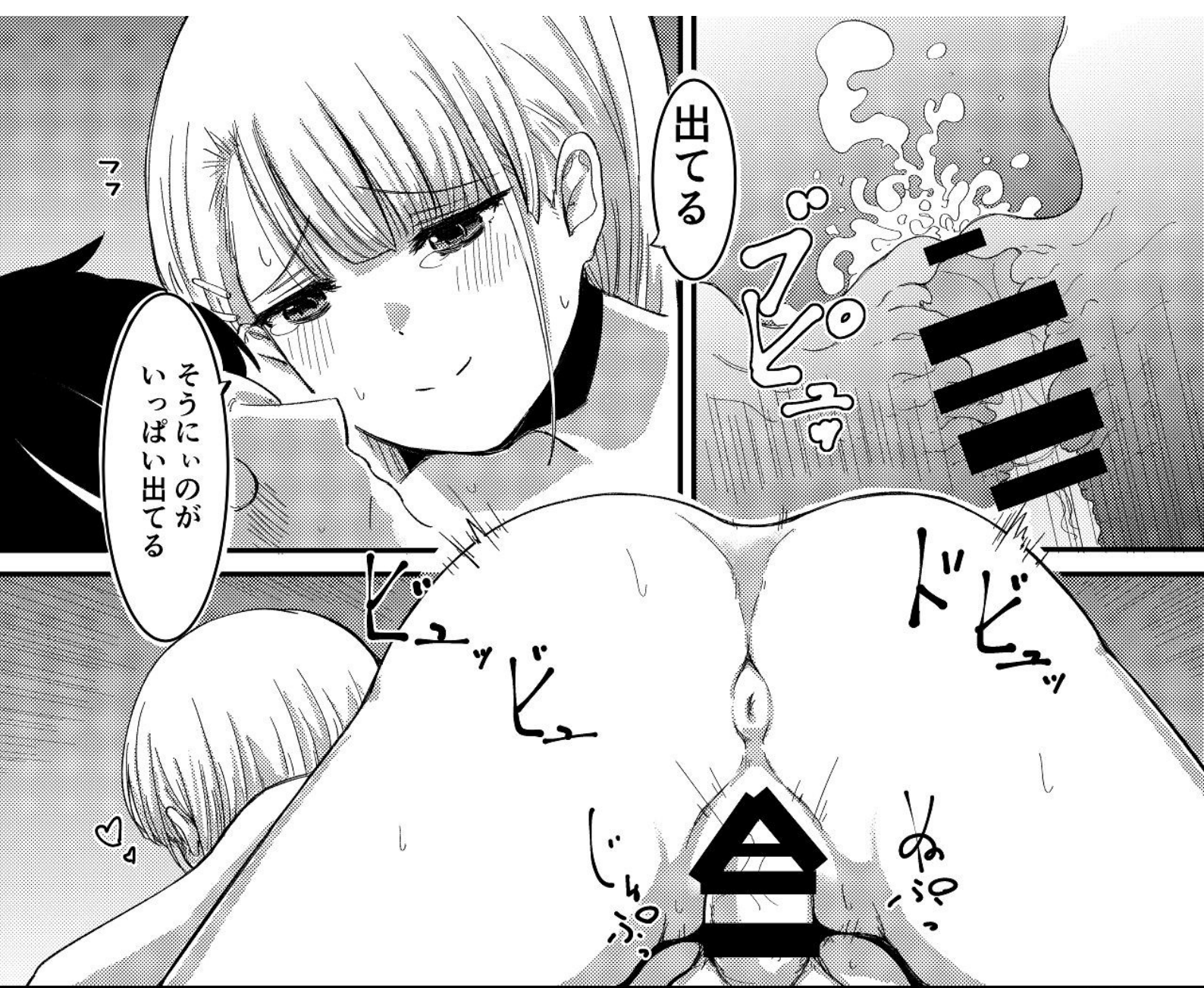
そりゃさ

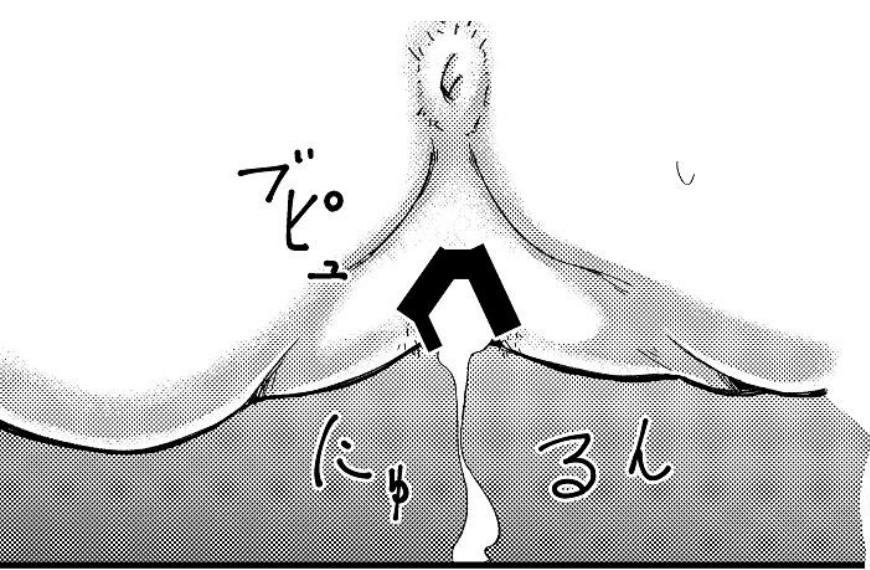
もっと欲しいよ

そりゃさ

私に出して

濃くてドロドロした奴が欲しいの

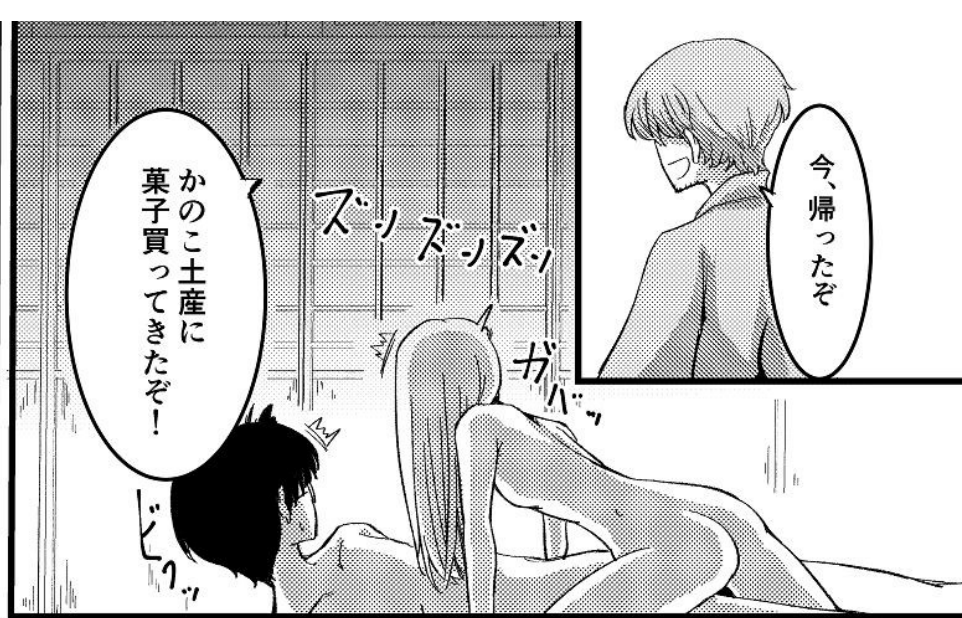






ガッ

兄ちゃん参上!

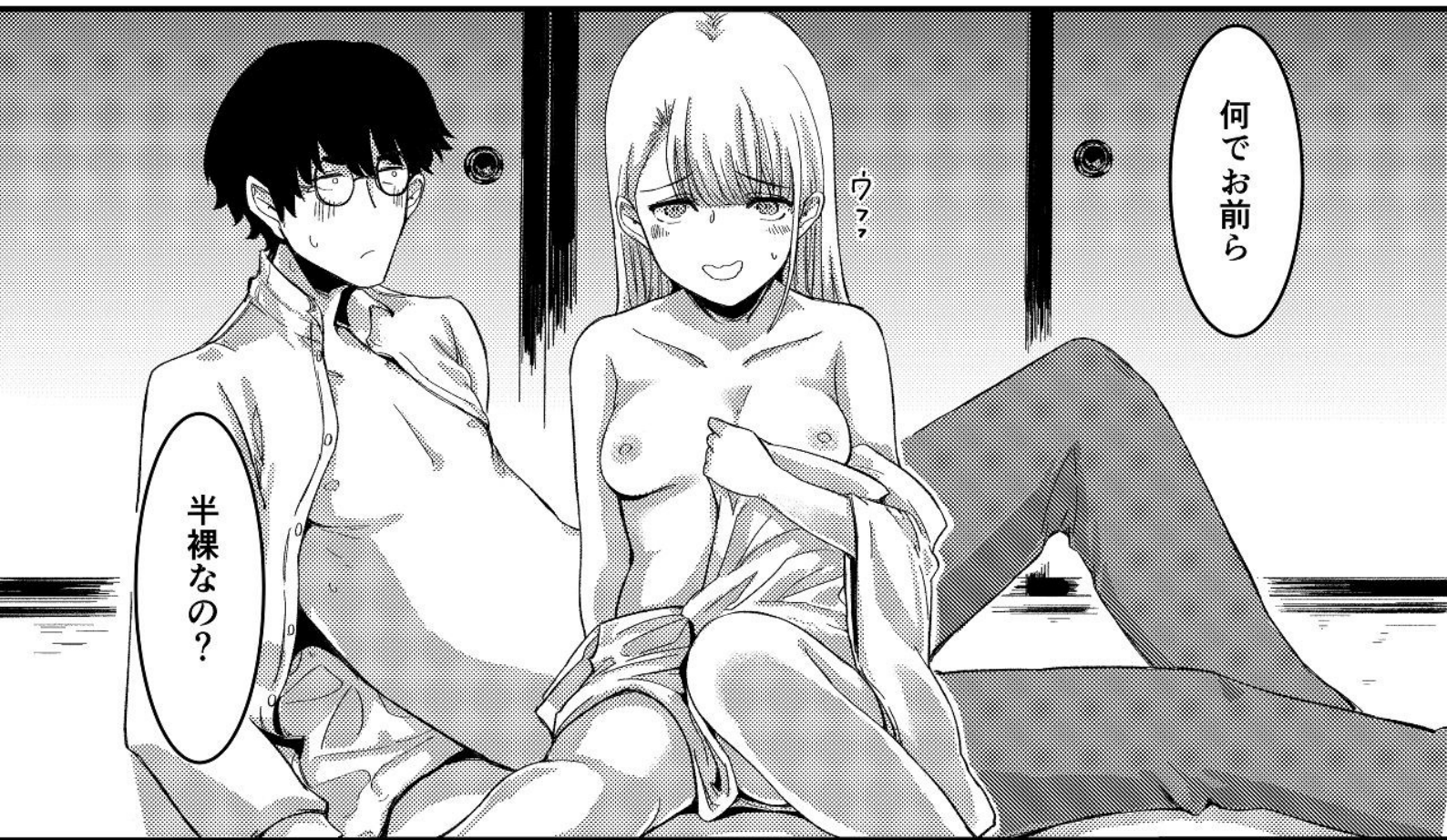


今、帰ったぞ

かのこ土産に菓子買ってきたぞ!

ズッズッズッ

ガッ



何でお前ら

ウフフ

半裸なの?



!!!

ガッ

いや脱ぐな!!

スルッ

小説家の先生から変な遊び教わったな俺も混ぜろ



宗一

お前...



よかったな  
かのこ

ポン



冗談だよ  
結婚相手は選べないけど

愛する気持ちは  
自由さ



ちんちん  
丸出したから台無し

そういうのは  
思っても口に出すな



よっちゃん

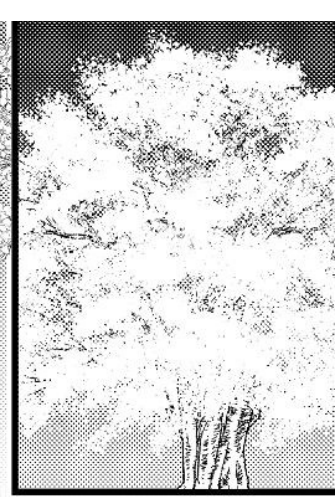
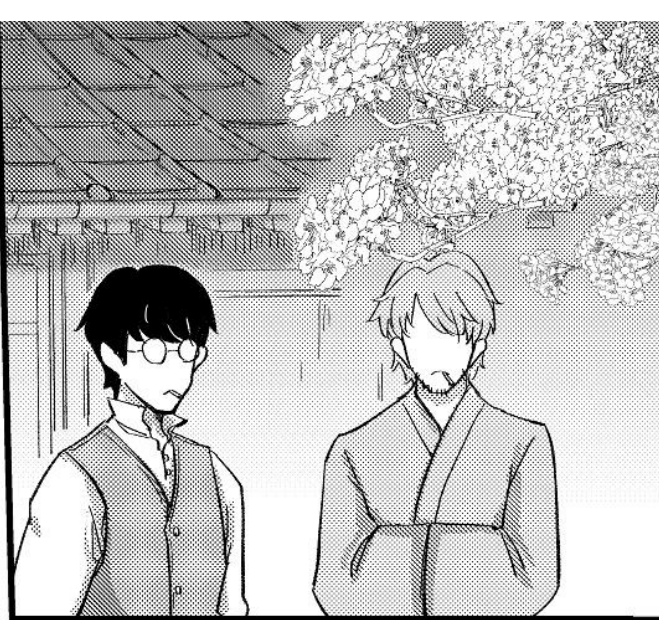
くっ



宗一  
タバコに付き合え

裸のままでは  
来るなよ

まず  
お前がズボンを穿け





家は何かに  
崇られているんだと思う

家の家系で  
白髪に生まれた子は

次第に色狂いになって  
周りを巻き込んで  
心が壊れていく



あいつ  
戸籍もないんだ

家の習わしで  
白髪の子は災いをもたらすから  
世間から隠すことに  
なっている

死ぬまで座敷に  
軟禁するか  
もしくは有力者に嫁ぐ  
ことになっている



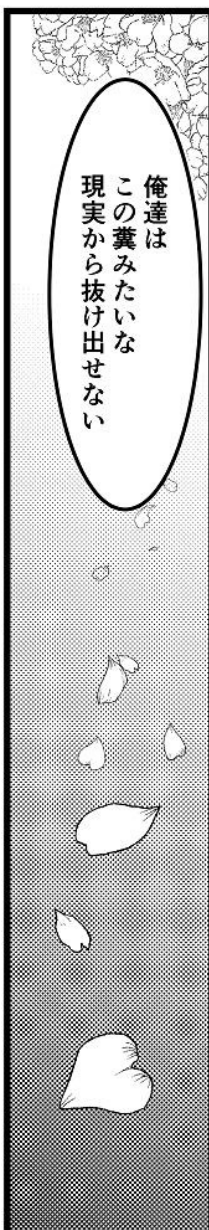
けど、

兄としてお願いだ  
しばらくの間  
かのこを愛してくれ

無常かもしれないけれど  
心地の良い夢すら  
かのこに渡せないのは  
辛すぎる

お前にも  
俺にも

変な気は起こすなよ



俺達は  
この糞みたいな  
現実から抜け出せない



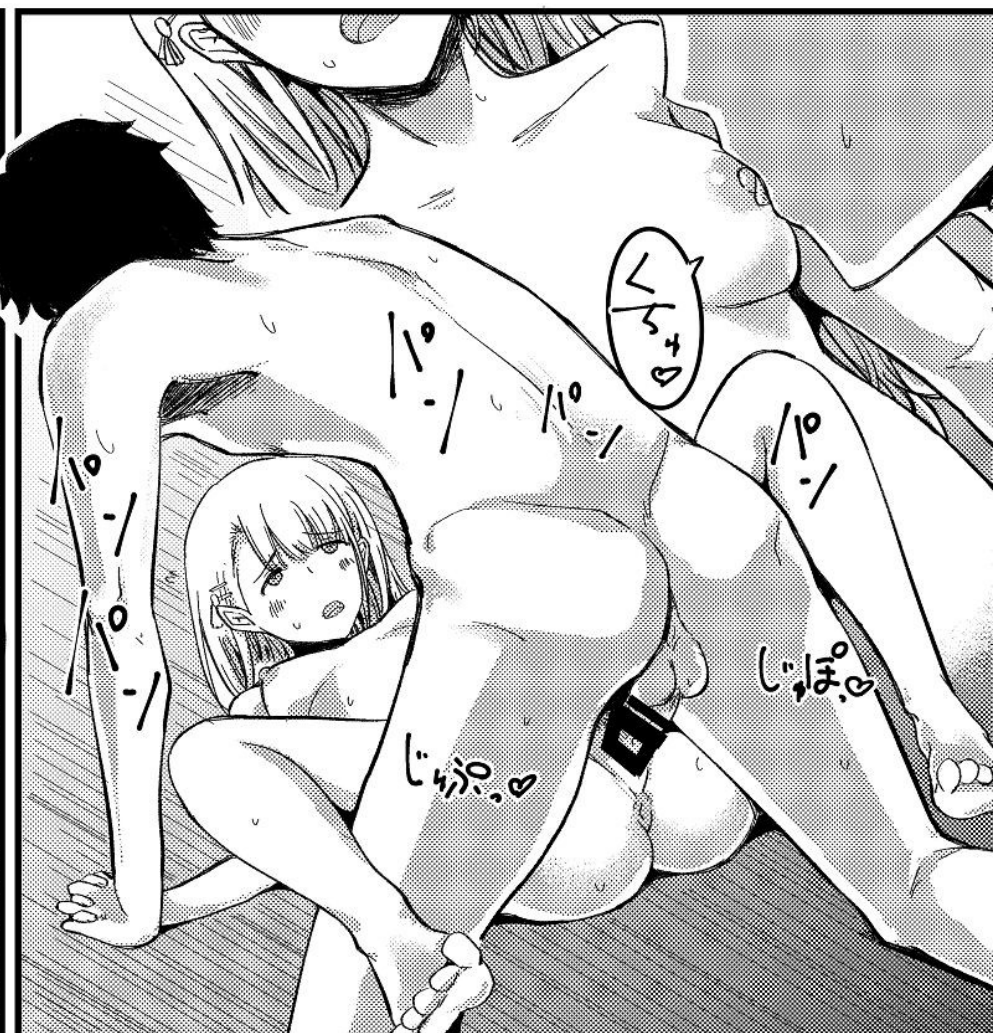
変態の有力者に渡せば  
災いを持つて  
いってくれるし

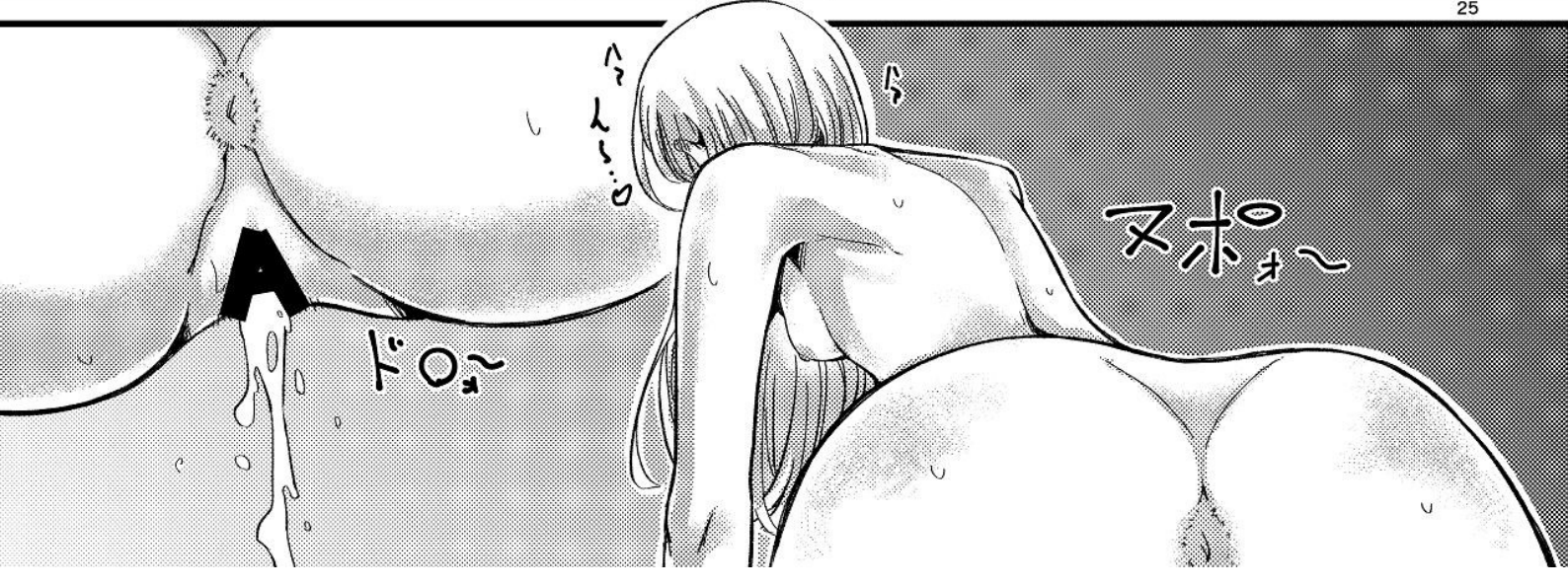
逆に  
見返りがもらえる

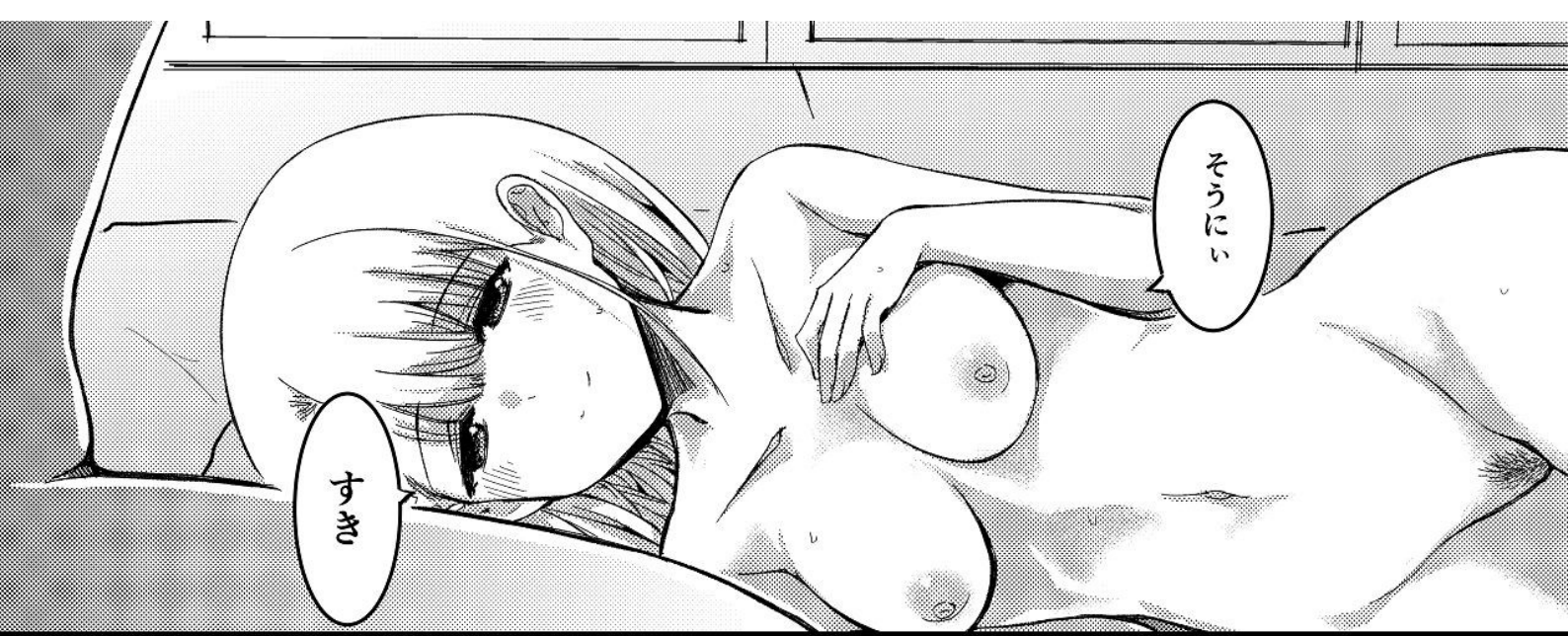
人を畜生のように  
扱う糞みたいな話さ



それが  
かの兄としてできる  
最後のことなんだ











てめえ!

許さねえぞ!  
覚えてやがれ!!



ドーン



おっとっと

よっ よっ

ぐっ  
ぐっ



ちよっと  
ごめんよ

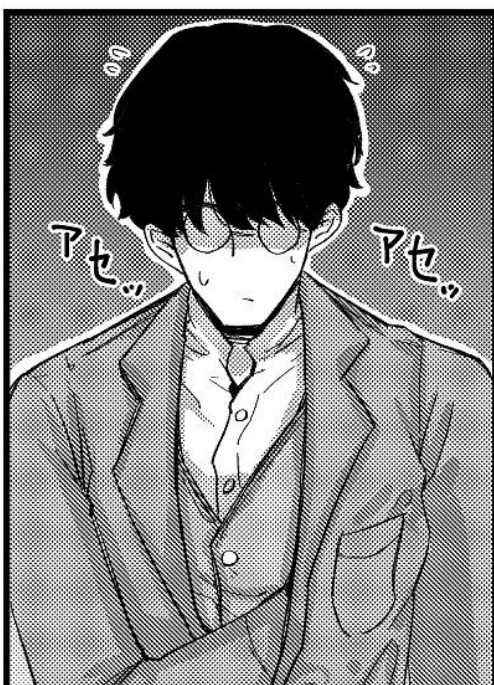


ちよっと待って  
もう少し  
我慢してくれ

ねえ  
そうにい



ふー



アセッ

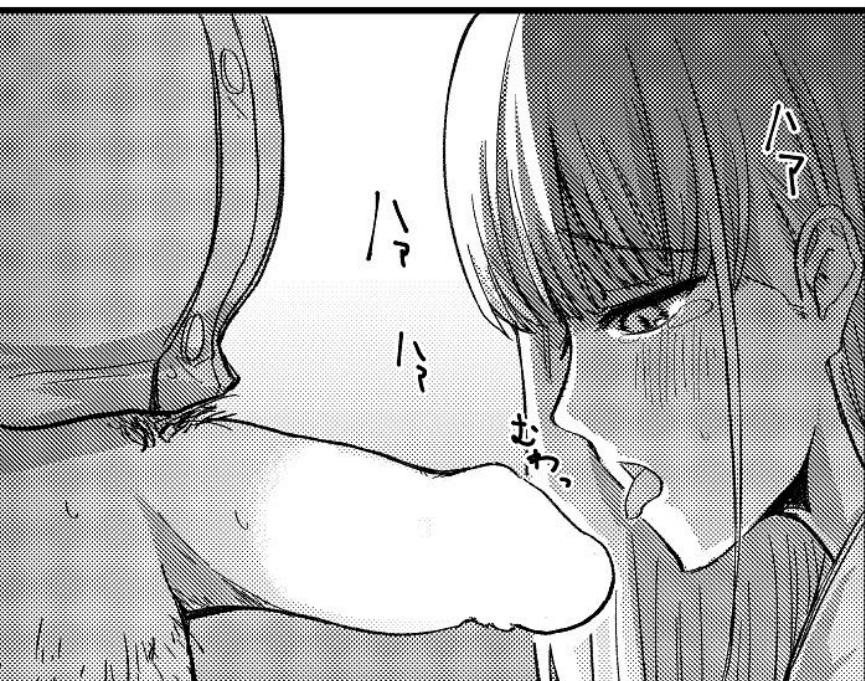
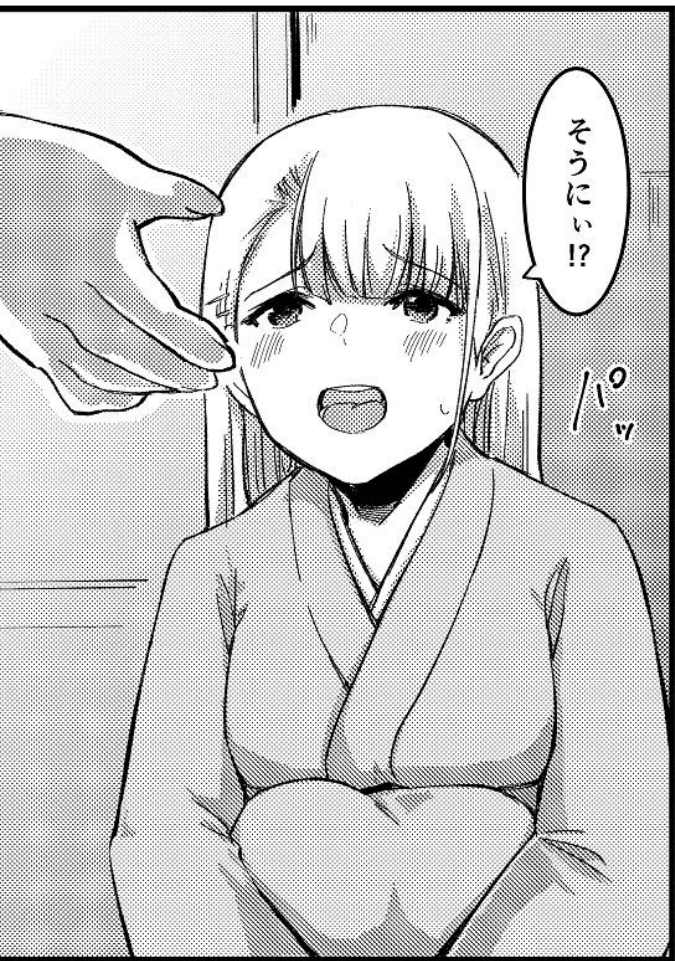
アセッ



!?

スルに淫寛

さつき  
ぶつかって  
来た奴





誰も彼も俺のことを見下しやがって

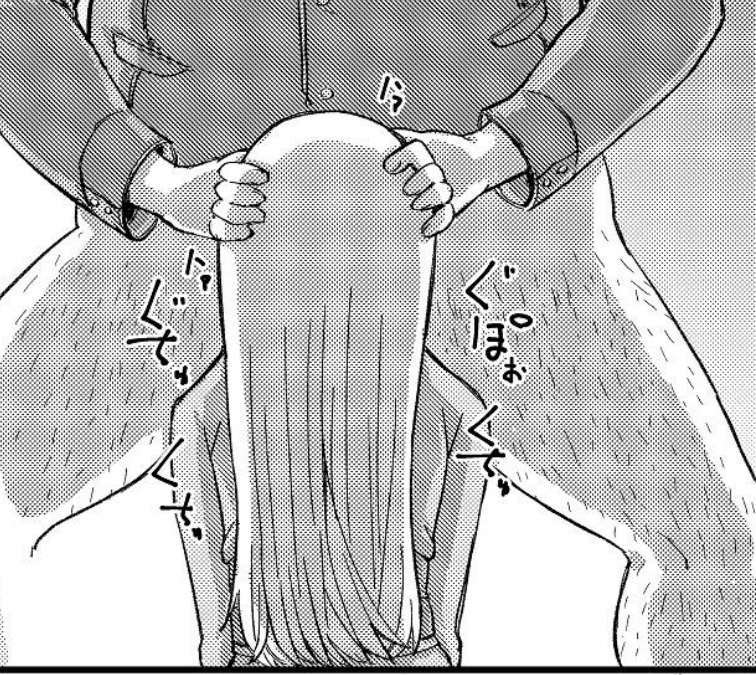
ハッ  
ハッ

オラ  
しっかりくわえ込め



すまん  
すまん

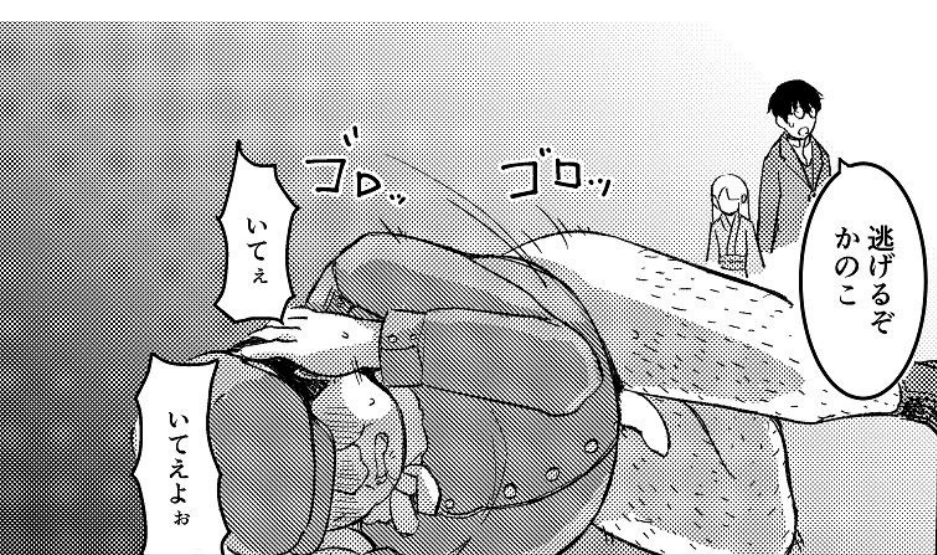
久しぶりだからすぐ出ちまった



どれ今度はおっちゃんが



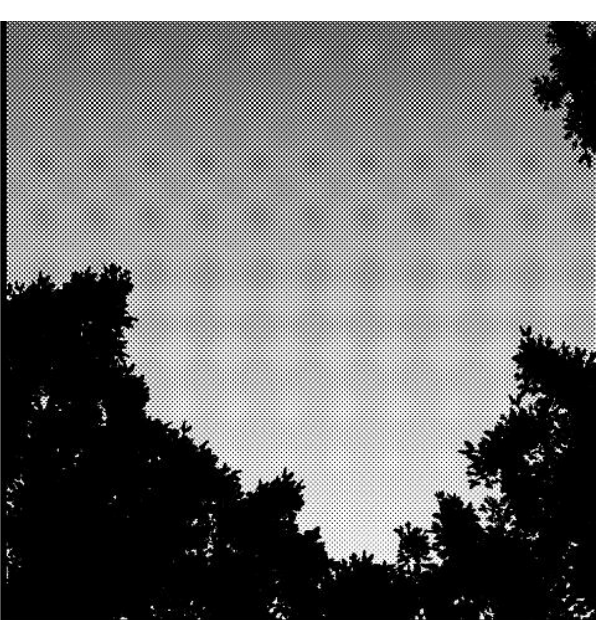
おおよよよく教育が行き届いたお嬢ちゃんじゃないか





おちんちん  
入ってきたあ

ズッ



いつからだろう

ハァ

おちんちん  
入ってきたあ

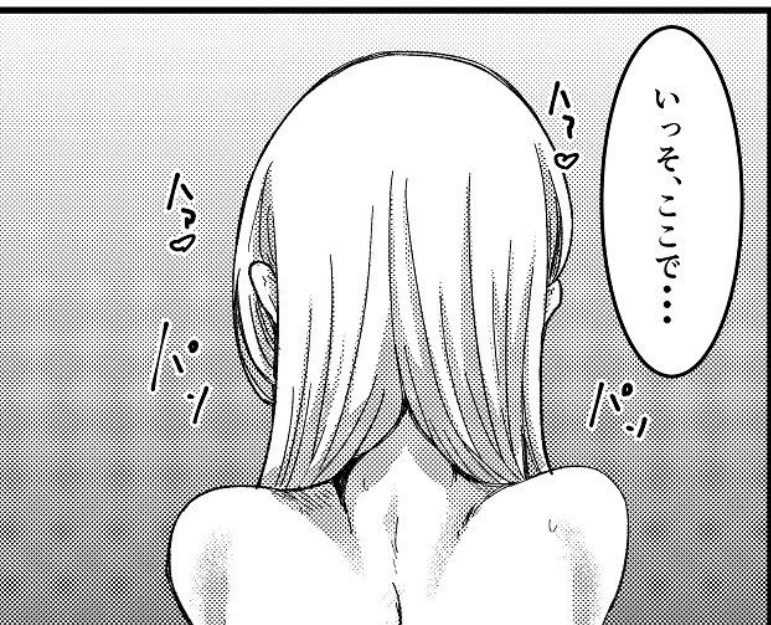
かのこの腫を  
見ることが  
できなくなったのは...



いつからだろう

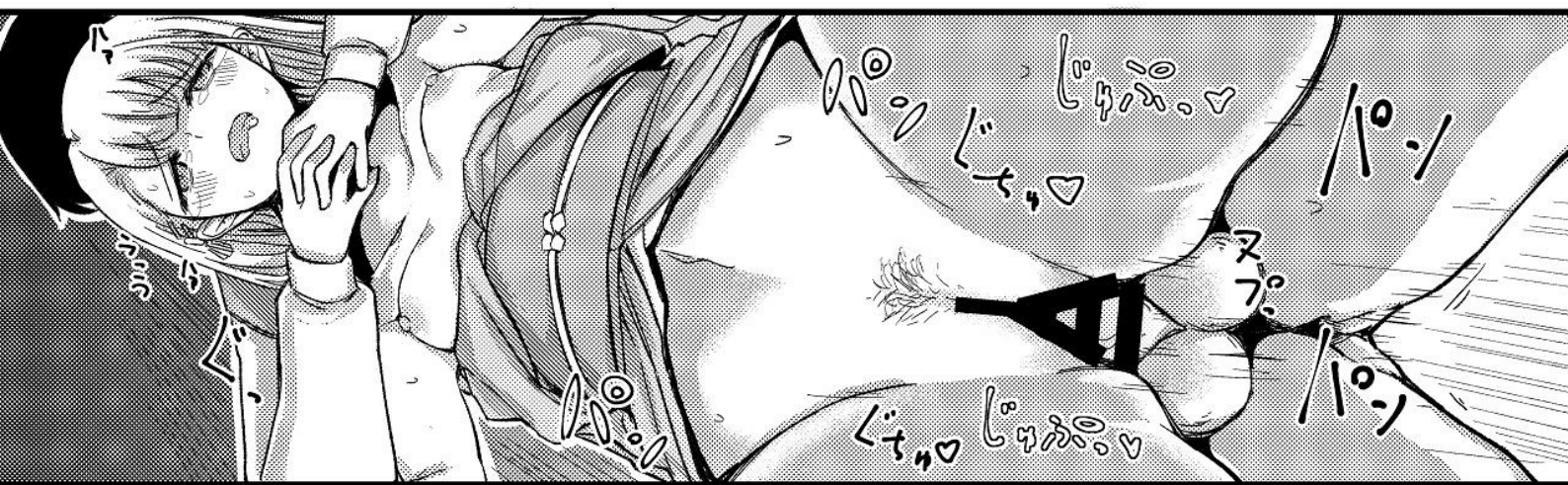
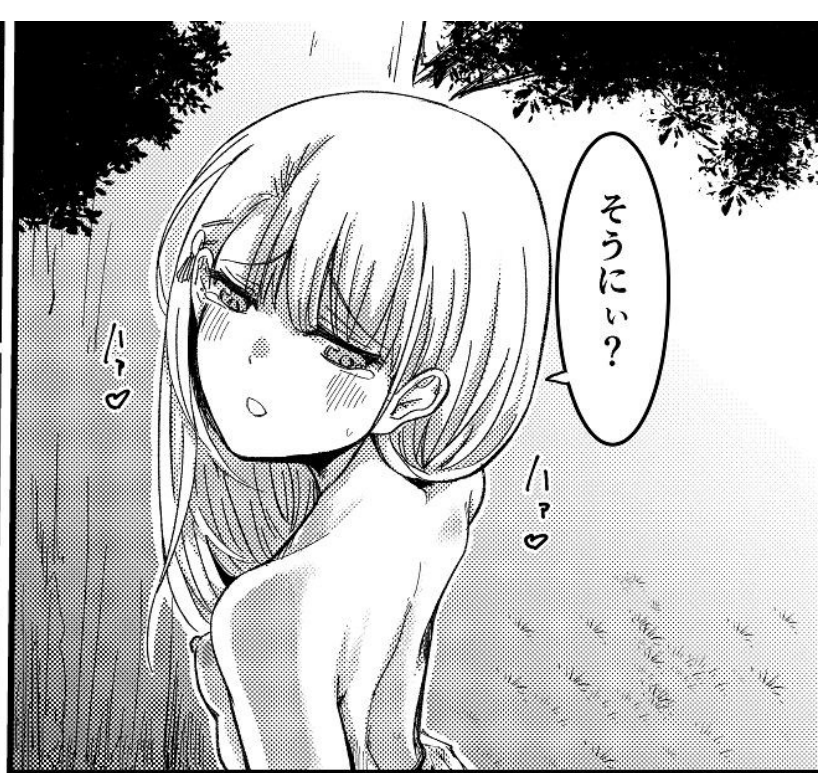
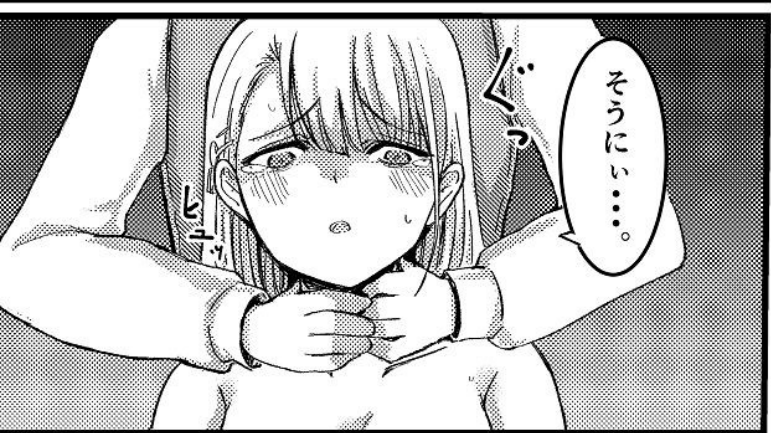
ハァ

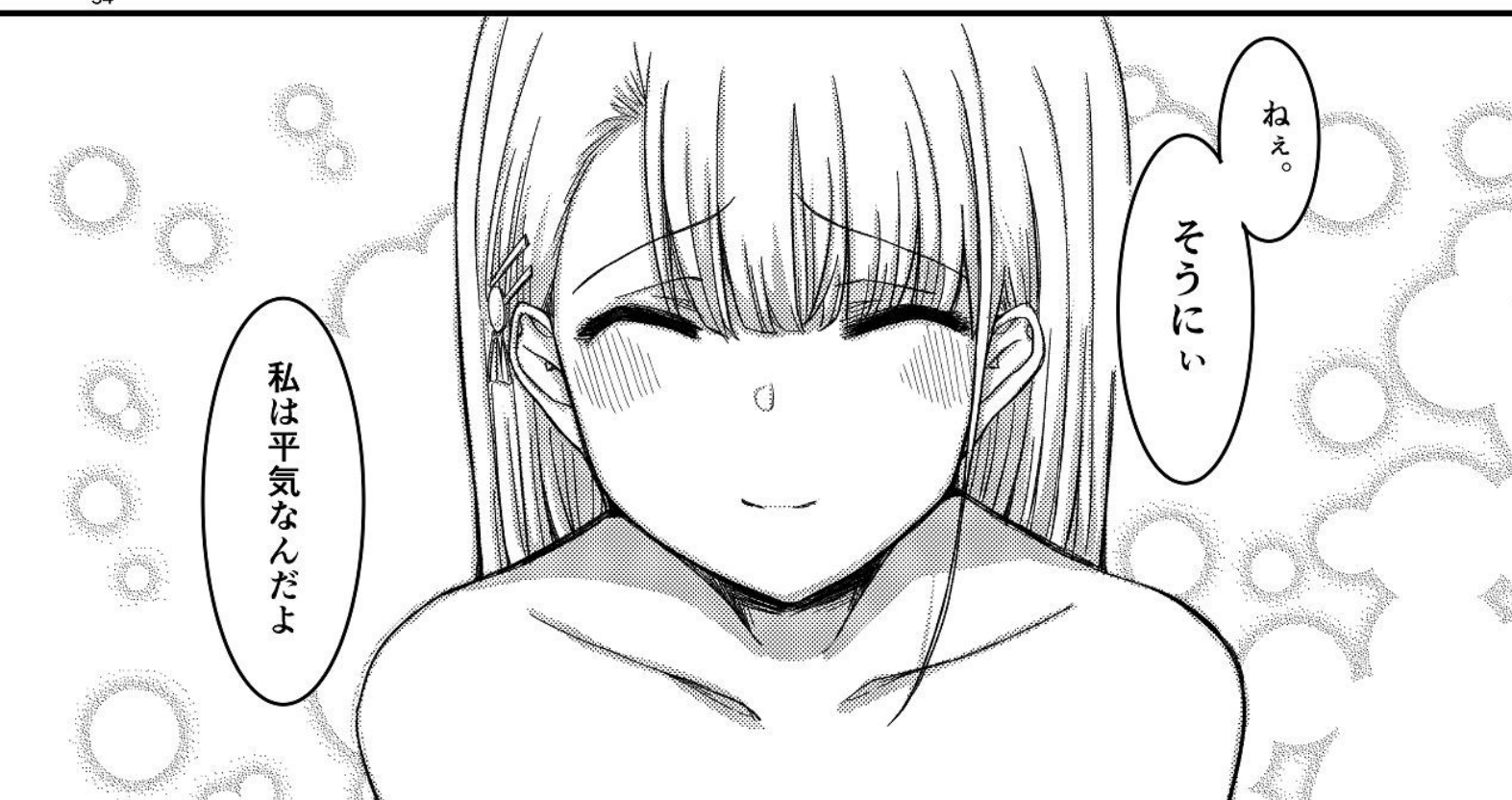
かのこが  
僕の知っている  
かのこじゃ  
もうなくなったと思いはじめたのは



いつからだろう...

ハァ







ああ、君が  
あの宗一君か

いつも  
お手紙ありがとう  
楽しく読ませて  
もらっているよ



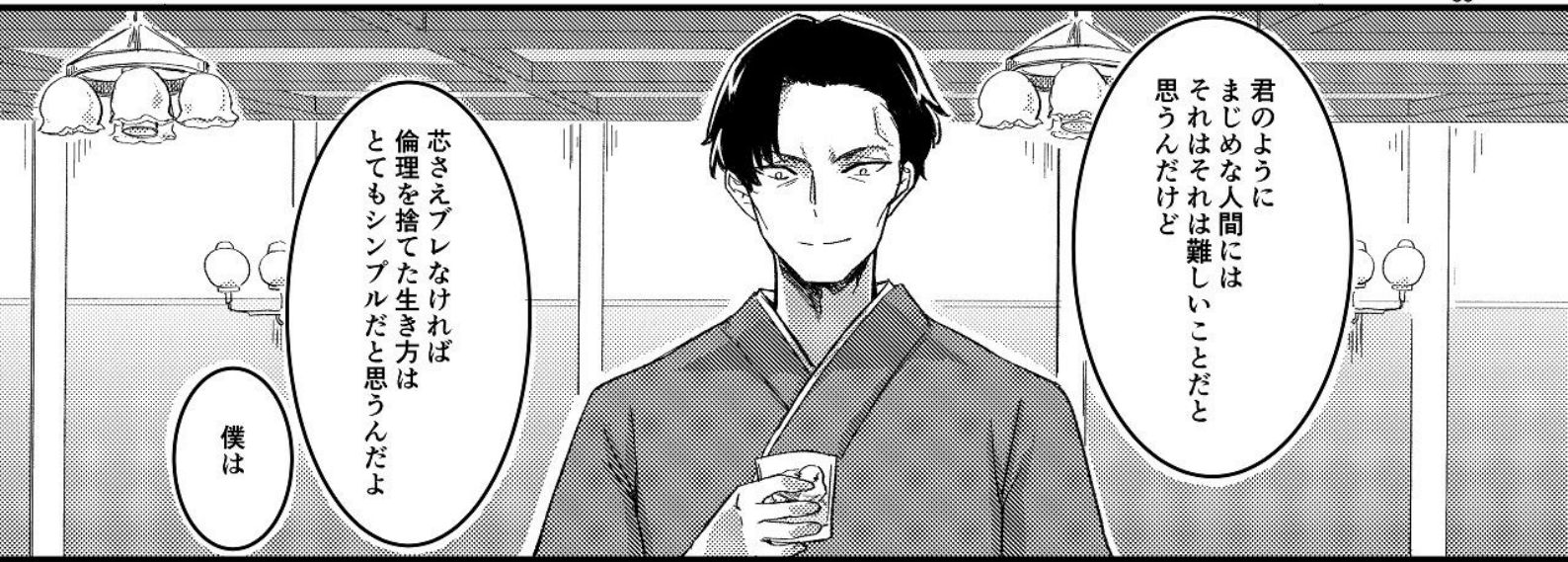
僕はさあ  
真面な人間じゃないから  
思うんだけどさ

君も狂ってしまえば  
簡単だと思うんだ



君は  
小説のような生き方を  
しているみたいだね

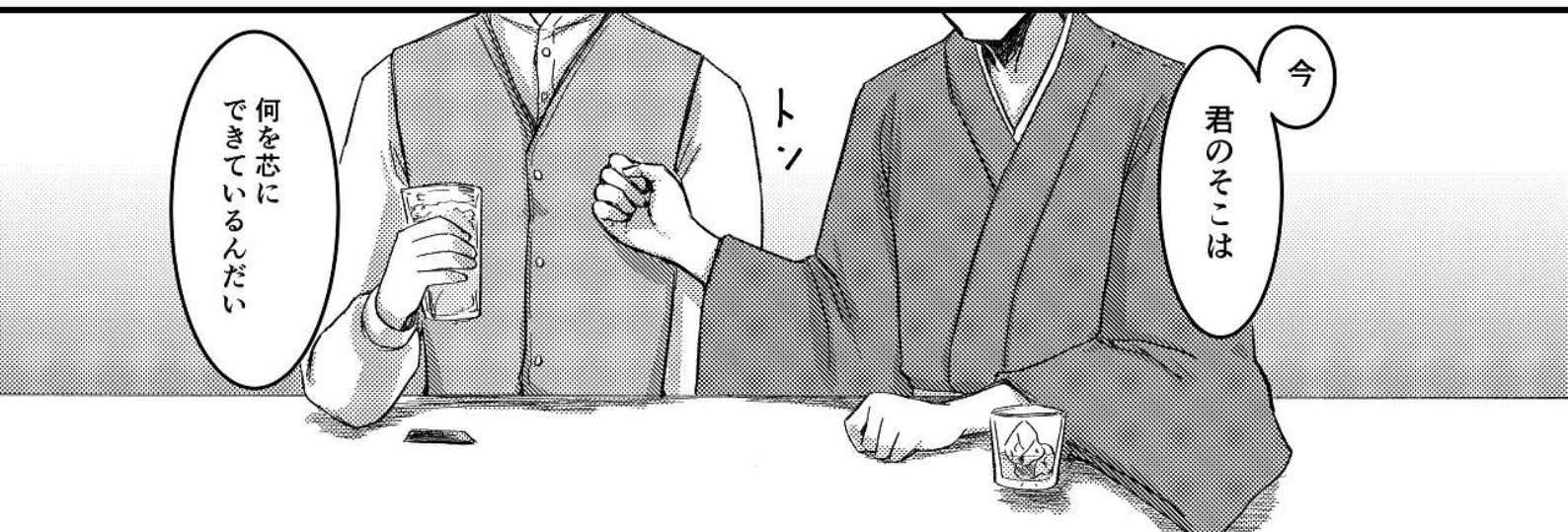
カラシ



君のように  
まじめな人間には  
それはそれは難しいことだと  
思うんだけど

芯さえブレなければ  
倫理を捨てた生き方は  
とてもシンプルだと思うんだよ

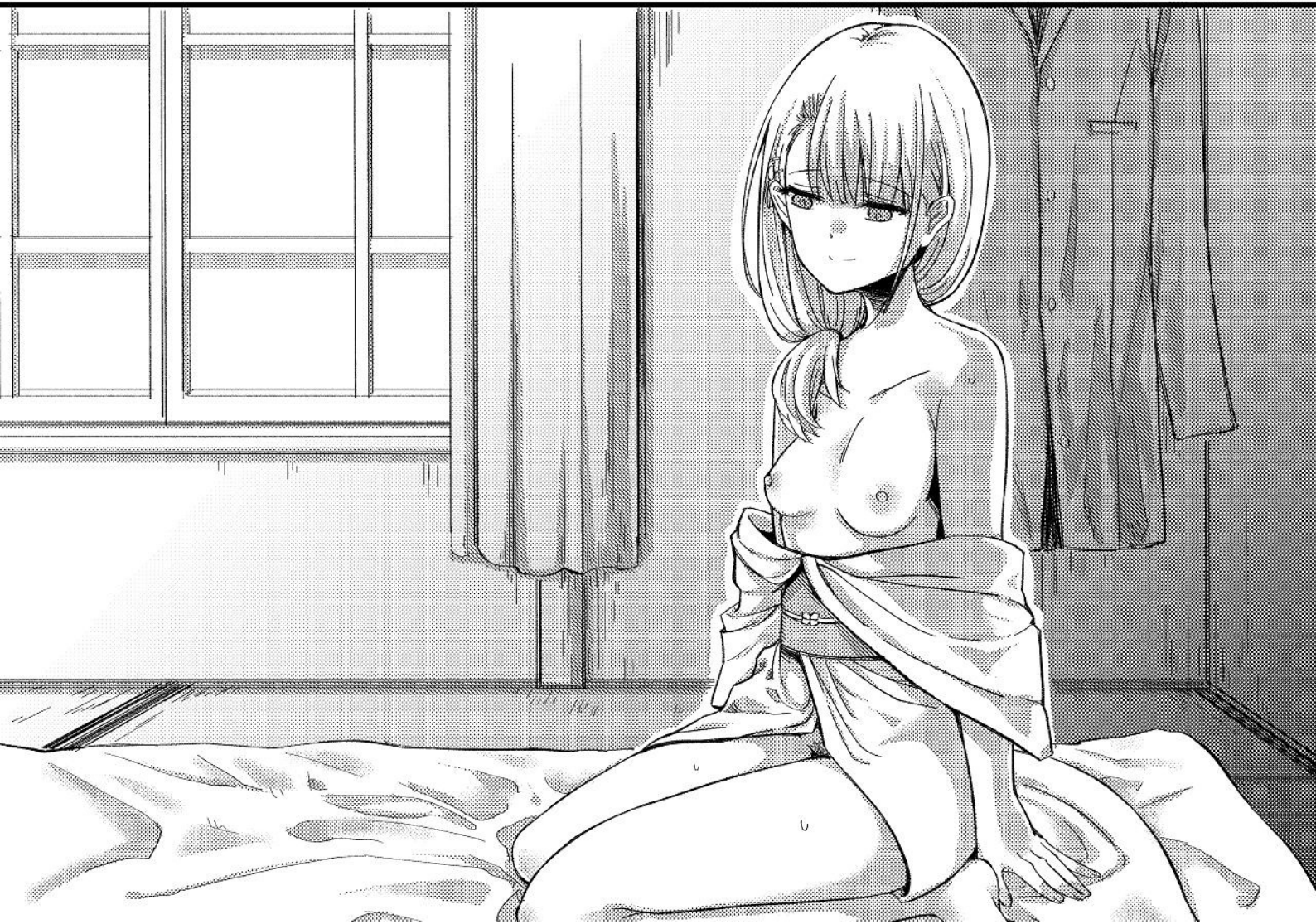
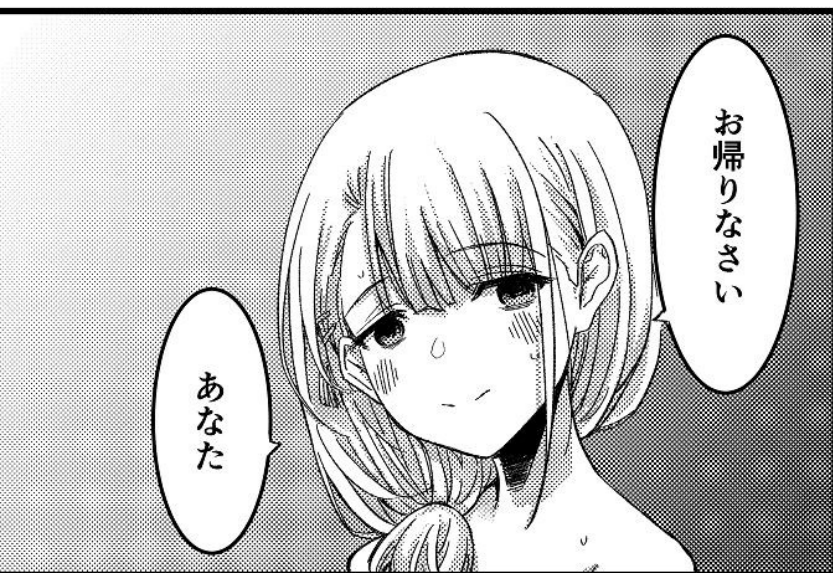
僕は

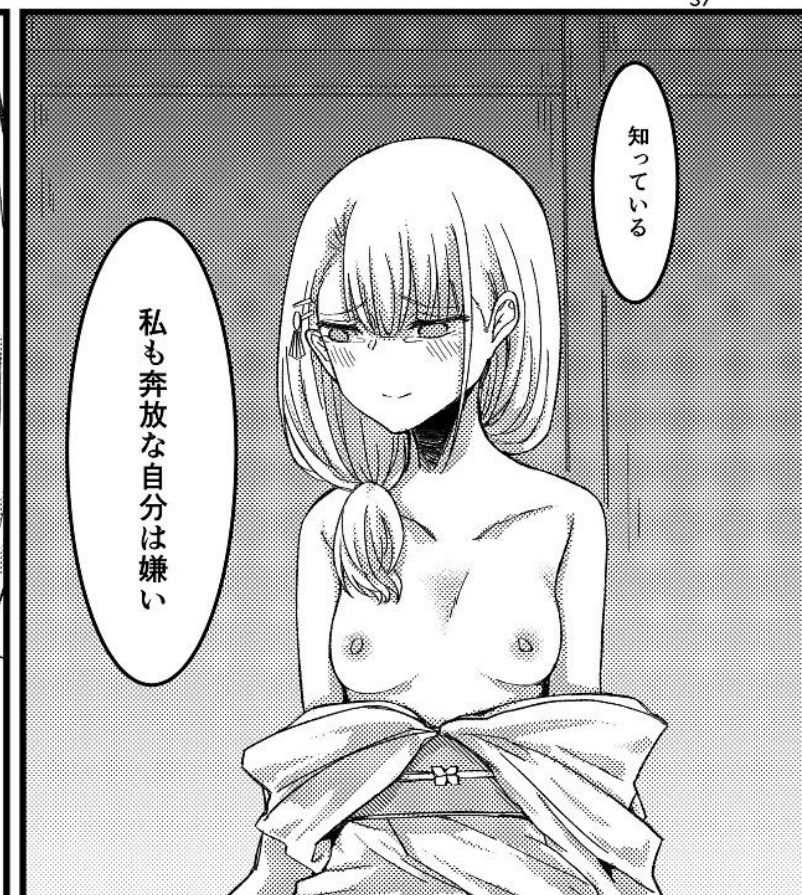
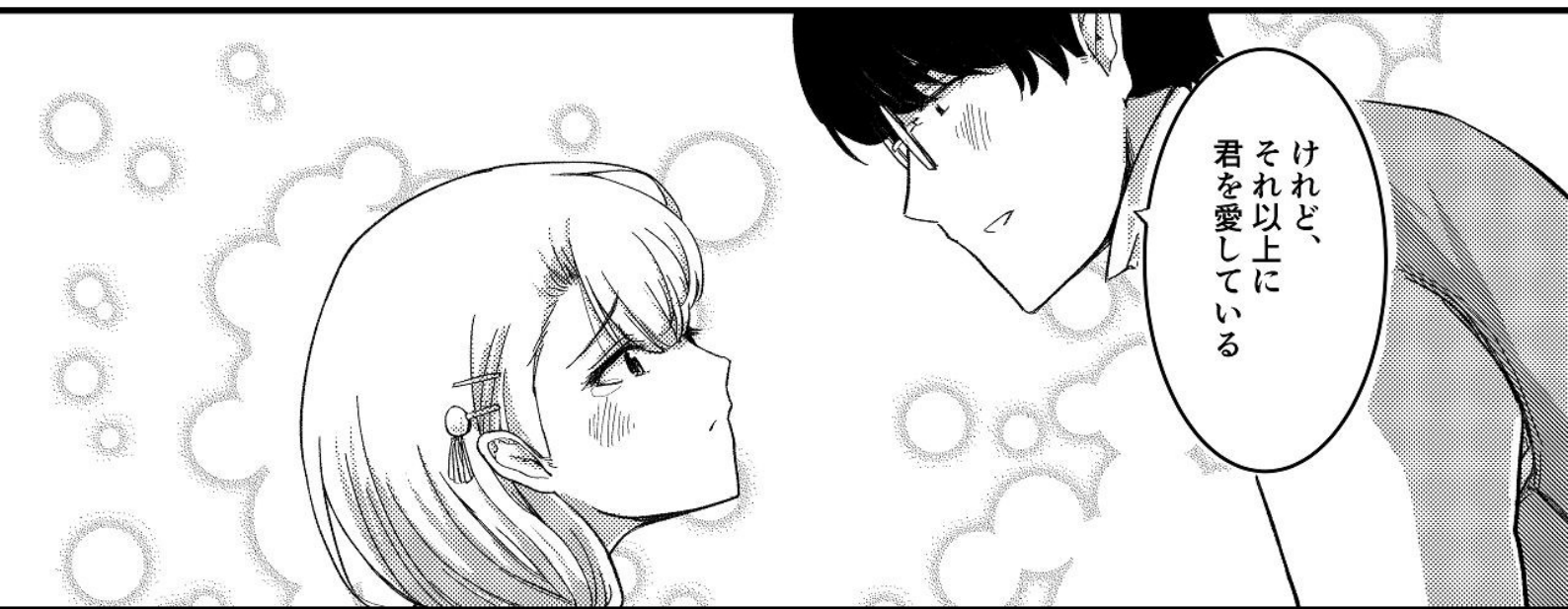


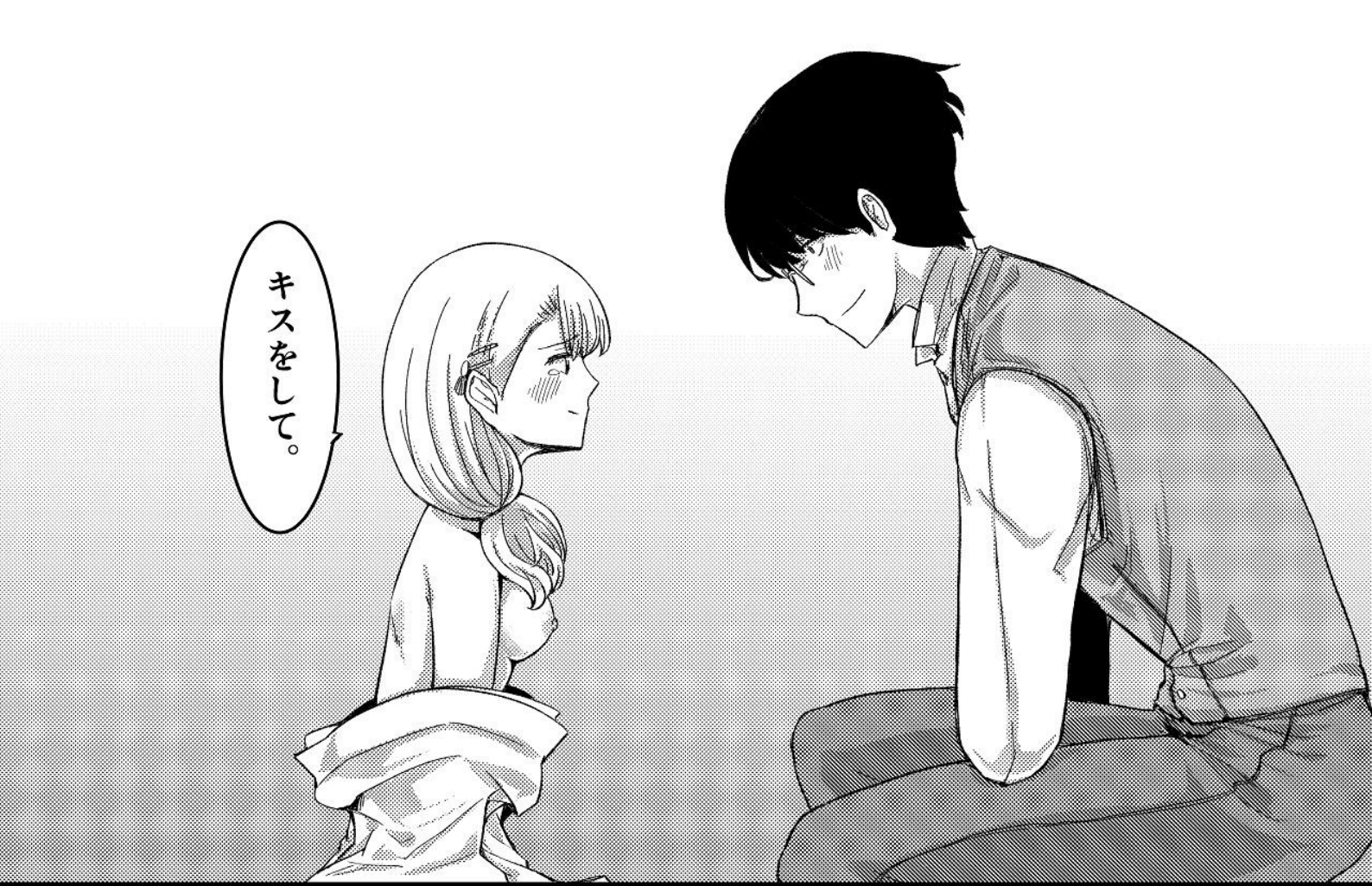
今  
君のそこは

トシ

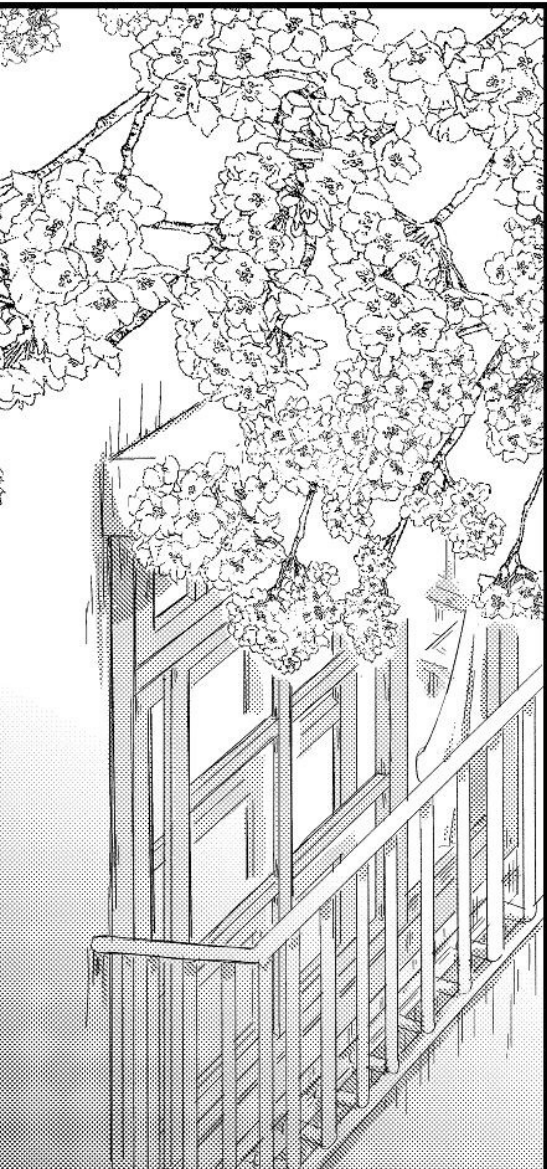
何を芯に  
できているんだい







キスをして。



お預けをされた  
お姫様は癡猛ですものね

ええ

カバッ

# 奥付

桜の下には死体が埋まっている

発行日  
令和5年5月5日  
COMITIA144

発行者  
サークル 幻想影燈籠  
amidara

印刷  
有限会社 ねこのしっぽ

連絡先  
amidara56@gmail.com

無断転載禁止

## あとがき

こんにちは、始めまして、amidaraです。オリジナルの同人誌を15年ぶりぐらいに出しました。お手に取って頂きありがとうございます。

助けてやれなかった。

この話は緩いパットエンドです。最後は報われる話を描くようにはしているのですが、それをやると呪い解除とかファンタジーが強くなるので無理でした。真綿で絞殺される二人が感じる瞬間的な幸せは最後は毒のように苦しめる物でも、感じている瞬間は幸せである、真実だって、そんな感じの報われ方でこの話は終わりです。

かのこが何故、あんなにも奔放なのかという点、そこはファンタジー要素でして、それはそうなの。心の病を患う事が宿命として定められ、しかも、それがおかしい事だと教わらなかった子がかのこです。

この作品を描くにあたって、私の性癖、化け物が好きってのがありまして、淫乱なロリは私にとっては存在してはいけないもの、つまり化け物なので、Hなのではと思ったのが制作の切欠です。

化け物として存在していたかのこが、宗一に連れられて町に下って人になってしまう。けれど、かのこは化け物なので助からないのです。

こんな辛い話を描くつもりはなかったんですけど、描き終わって辻褄を合わせる考察を考えたらこういう話だったんだ、となりました。

最初はコロナでイベントもなくなって、好き勝手にオリジナルのエロ漫画に挑戦してみるか、と軽いノリで作ったはず。制作期間に区切りが無いからページ数も好きなだけだった。

出来た物はゴリゴリに興味を詰め込んだ、エロ漫画と胸を張って言えないものでした。コミティアでしか出せない。DLサイトで売るなら誰に向けて売るのがいい。

これは私向けです。

この作品、終盤に寝取られシーンがありまして、あの帝国軍人と言っている負け犬、本当に嫌いで、自分で描いていて自分のキャラなのに愛せないって初めて思いました、描いている時も、チェックで読み直している時も殺してやろうかと。本当に嫌い。描いていて、寝取られ辛いってダメージを負いながら描きました。

最後に出てくる作家先生は言葉もモチーフも適当なので、よろしく願い致します。真面に生きることが出来るならそれが一番よ。

そんなこんなで、15年ぶりのオリジナル同人誌でした。私、オリジナルを描こうとすると、キャラの掘り下げで家系図を作る癖がありまして、桜の下に埋まっている人と爺さんの話を描きたいような誰向けにもならないから、妄想で済ませるべきな様なそんな感じ。人間ドラマが強い、シリアスエロ漫画なんて本当、趣味のチラシの裏だし。なるだけなら、万人受けしたい。

本当、ここまで読んでいただき、ありがとうございました。

amidara